

# 平成 28 年度 在宅チーム医療を担う人材育成研修まとめ

## 1 今年度の取組

都筑区医師会地域多職種連携協議会（以下多職種連携協議会）の取組として人材育成研修を実施しました。

毎月の多職種連携協議会幹事会で研修内容を検討するとともに、主任ケアマネジャーがグループワークのファシリテーターを担えるよう事前研修を実施しました。

当日のグループワークは事例の理解を深めるために「エコマップ」を作成し、事例をもとに各職種の役割や連携について検討しました。まとめとして、グループの中で出された「職種に期待されていること」を発表し、共有しました。研修目的であった、「①互いの役割と連携の必要性を理解すること②自分ができることと相手ができることを見つけること」について達成することができました。

## 2 実施内容

### ●実施内容

- ◆日時：平成28年10月5日（水）19時15分～21時30分
- ◆場所：都筑区役所 6階大会議室
- ◆テーマ：事例を通して考える「医療と介護の専門職それぞれの役割と連携」
- ◆当日のスケジュール：

19:15～ 挨拶  
19:25～ 本日の流れの説明  
19:35～ 事例説明  
19:50～ グループワーク  
① エコマップ作成  
② 終末期の事例について職種に期待することをグループワーク  
20:50～ グループ発表、まとめ  
21:30 終了

- ◆参加人数 153人

### 【内訳】

医師：8名 歯科医師：5名 看護師：11名 薬剤師：15名  
PT:15名 OT:5名 MSW:2名 PSW:1名 ケアマネジャー：45名  
認知症 GH:1名 介護職：11名 管理者：5名 入所施設相談員：3名  
生活支援 Co:2名 包括支援センター：14名 区役所：9名

## ●アンケート結果など

### ◆グループディスカッションで出た主な意見

#### ①看護師より

多職種連携の必要性を理解できた。

#### ②薬剤師より

これから地域で多職種と連携を密に取りたい。服薬管理は錠剤をつぶして飲みやすくするなど工夫しているが、服薬をケアマネに確認したい。

#### ③医師より

ターミナルの患者家族に対し病状を丁寧に説明するの必要を感じた。職種によっては医師に対して話しにくい印象を持っていることを知った。

#### ④リハビリ職より

退院時の調整からリハビリの視点があるといい。意思表示できる段階で本人の気持ちを汲み取ってケアを始めることで、ターミナルになり医療が中心になっても、痛み、嚥下、浮腫などへの対応ができる。

#### ⑤介護職より

ケアだけでなく、他の専門職との情報共有や家族とのコミュニケーションも期待されている。

#### ⑥ケアマネジャーより

地域の中でどのように生活していくかを考えネットワークを作ることが大切。食事についても医師から助言をもらいたい。

### ◆当日のアンケート 回収率：約78%（回答者数119/153名中）

#### ①グループワークについて（非常に良かった、良かった92.4%）

- ・職種ごとに着目点が違い新鮮だった。
- ・自由な雰囲気での発言でき、考えが深まった。
- ・介護職の方は、医療職への関わりが難しいと感じていることを知ってよかった。

#### ②今回の研修で新たな発見がありましたか？（あり92.4%）

- ・包括支援センターとの関わりを教えてもらった。
- ・歯科、口腔ケアの必要性に気付いた。
- ・退院早期やターミナル期の自宅でのリハビリの重要性。

#### ③研修を受けてすぐに実践できそうなことはありましたか。（あり63.0%）

- ・ケアマネや主治医に情報を求めていく。
- ・ケース会議で歯科医師、薬剤師等の意見を取り入れる。
- ・事務所内の研修で使ってみたい。



## 3 次年度に向けて

多職種間で顔の見える関係を築くこと、事例検討により連携のためのスキルを高めることなどを目標に、研修内容を多職種連携協議会幹事会で検討していきます。また、研修手法を工夫する予定です。